教会防災ネットワークの初動体制ワークシート　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２０１７年１月

1. **いつ、どういう状況でセンターを開設するか？**

**考えられる災害：大地震、火山噴火、スーパー台風　（倒壊、火事、水害、インフラ崩壊、食料不足）**

1. 最初の４８時間：自分と家族の安全。隣近所の安否と救出援助。教会員の安否確認。

あなたは何をしますか：

1. ３日目：世話人同士が連絡し合う。ネットワーク教会の被害情報を集める。

世話人は誰ですか：　　　　　　　　　　　　　　どういう手段で連絡し合いますか：

1. 災害の規模などを踏まえて支援活動をするか世話人会が決定する。

決定したことを誰に、どのように伝えますか:

1. **どこにセンターを開設するか？**

各災害シュミレーションにより、幾つかのパターンが考えられる。

　　１） ネットワークエリアが全滅の場合。被災地外に開設する。（富士山噴火、首都直下型地震などのケース）

　　２） 部分被災はあっても、被災地外の本部と連携して、現地ベースとして機能できる場合。（熊本地震のケース）

　　３） 東京の一部が被災し、このネットワークエリアは安全で支援活動ができる場合。（荒川氾濫時の高台地区）

1. **どういうパターンで支援するか？**
2. 教会ネットワーク独自で災害支援センターを立ち上げる場合。（熊本地震、広島土石流災害時の場合）
3. 社協のボランティアセンターに参加協力する。（常総市鬼怒川氾濫時の場合）
4. 災害支援団体のセンターに参加協力する。（３：１１のクラッシュと諸教会の協力）

＊　あなたのエリアのネットワークではどのパターンが現実的でしょうか：

４．**どの施設をセンターとして使うか？（教会ネットワーク内でセンターを持つ場合）**

　　１）「意思決定チーム」と「実務チーム」が作業できるだけのスペースがあるか？

　　２）「物資の置き場」（及び駐車場スペース）や「ボランティア宿泊」のスペースがあるか？または、これら

　　　　　は必ずしも本部オフィスと同じ建物である必要はないので、近隣に使える施設を探すことも可能。

　　３）複数電話回線の使用が可能か。（被災者用、ボランティア用、情報提供用インターネット、スタッフ間、

　　　　センター間の連絡用）それに聴覚障害者用FAXなども。被害状況の事実などはホームページに掲載し、

　　　　いちいち電話応対しなくていいようにする。

* 私たちのネットワークではこの条件を満たす施設は？

　　＊　あなたの教会として提供できるリソース（建物、人材、技術など）：

 ＊　あなたの教会として助けてほしい事は何ですか：

　　＊　その他、気になっている事、心配なことは何ですか：